



# いずみ

令和8年6月30日発行

<学校教育目標>

自ら行動する子  
かかわり合い、  
よりよい自分を  
目指す子

学校HP



コミュニティ  
スクール



(Tel) 3480-3881 (Fax) 5497-7358 (HP) <http://www.komae.ed.jp/ele/izumi/>

校長 鷲見 真太郎

## エージェンシーを育むために

校長 鷲見 真太郎

学校だより4月号の学校経営計画全体構想図でお示した通り、教育活動を通して「エージェンシー」の育成を掲げております。「エージェンシー」とは、OECDがEducation2030プロジェクトで策定した「ラーニングコンパス」において「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義されています。本校では、それに迫るキーワードとして「主体性」を据え、教育活動の推進と検証を行っています。

先日、校内研究会において、高学年分科会が本校の取組の柱の一つ「自分たちで作る和泉小学校」について実践を発表し、成果や課題について協議しました。児童運営委員会の年度初めの導入の仕方や議題の取り上げ方・運営のポイント、委員会活動における教師の支援のスタンス、各種行事における実行委員の進め方などについて、実践による子供たちの主体性の伸びの捉え方や、今年度異動してきた教員から見た戸惑いや本校の課題など、様々な立場や視点から協議を進め、整理することができました。実際の子供たちの姿としては、以下のような様子が見受けられます。

- チームスのチャンネルに提案された議題について、提案者本人が児童運営委員会で提案し、協議する中で、その場での結論を急がずに、教員たちを含め、より広く意見を集めた上で再検討することなどが子供たちの発想の中から出てきた。(学校全体をとらえる俯瞰的な視座)
- 運動会や各委員会活動の中で子供たちから様々な新しい活動のアイデアが提案され実現に向けて動き出している。(自分事として捉え、自己実現に向けての行動)

上記の姿はほんの一例で、その他にも子供たち自身が自分たちの力で学校を変えていく動きが数多く見られています。今後もこうした活動を通して、「変化を起こす」子供たちの姿が校内の随所で見られるように発展させていきます。また、校内研究では、あと2つの柱、「全教科における問いをもった学び」と「子供が夢中になる探究的な学び」についても検証し、子供主体の探究的な学びを推進していきます。

さらに、3つの柱の土台となる「すべての子供の居場所」として、校内サードプレイスをはじめとした環境整備に加え、ふれあい月間で見えてきた、子供たち同士の間関係づくりの課題解決に向けた取組も進めてまいります。

本校の教育活動への、ご理解・ご協力を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 7月の安全指導

#### 交通安全・安全な生活 (いかのおすし)

- いざという時は逃げるのが大切です。地域には【子ども110番】がありますので、逃げる場所を確認しておきましょう。また、防犯ブザーの確認も合わせてお願いします。